

東北未来リーダーズサミット

本県2人のスピーチ

東京で今秋開かれた「ビュートウモロ東北未来リーダーズサミット」(一般財団法人教育支援グローバル基金主催)岩手、宮城、福島の高中生らが被災体験を共有し、東北の未来像を提言した。サミットで、本県の2人が行ったスピーチを紹介する。

小川 彩加さん(18)

(釜石市出身米田・ミシガン州の高校に留学中)



震災で私は家族全員を失いました。両親、姉、祖父母がいなくなりました。これ以上失うものはないというくらい私は全てを失いました。

3月11日、地震の後、私は母と祖母と高台に避難しました。しかし、黒い壁のような波は私たちのすぐ背後に迫っていました。その時、母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

人は助け合い、支え合っている。震災は合い、思いやりながら生きていく。それが、私たちが目指している。震災は、私たちに教訓を与えてくれた。私たちは、震災を乗り越え、未来を築いていく。私たちは、震災を乗り越え、未来を築いていく。私たちは、震災を乗り越え、未来を築いていく。

山根 りんさん

(宮古商高3年)



私は宮古市という沿岸のまちに住んでいます。学校や家からも海が見えるのが海が身近なこのまちで私は育ちました。

3月11日、地震が起きたとき、ソフトボール部のキャプテンの私は、高総体に向けて、グラウンドで練習をしていました。地震の後、学校に迎えに来た母と祖母と一緒に、私は帰省してしまいました。大きな津波に助けられました。母は、私に奇跡的に助かりました。母は、私に奇跡的に助かりました。母は、私に奇跡的に助かりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。

た。木に刺さったおぼろげな光景を見たとき、私は涙が止まりませんでした。あのとき私はあんなに悲しい光景は今でも私の頭から離れません。数日後、姉が亡くなったこと、父が行方不明であることを知らされました。遺体安置所で姉と対面したとき、姉の頬を舐り何度もおぼろげな光景を見たとき、私は涙が冷たくなりました。姉の頬はぬれぬれした。もしかしらば目を覚ましてくれるんじゃないか、そう思いました。姉から離れたくない。母が言った「津波だ」という言葉が、私が最後に聞いた母の言葉となりました。